

NO.104

平成18年4月1日発行

SHIMIN PHOTO
市民フォト

KAGOSHIMA

鹿児島

屋外のオブジェ

Outdoor Objet



【陽光を浴びて】

～甲突川左岸緑地～

CONTENTS

【特集】まるごと桜島.....3

クローズアップ.....12

大久保重樹さん

学校探訪.....14

吉田南中学校

カメラトピックス.....16

ハロー鹿児島.....18

ピエダツ・フェレイラさん

私の好きな場所.....20

植村バーバラさん

ふるさと再発見～文化財編～.....22

石谷の石坂

あなたのフォトサロン.....24

鴨池写友会

よかタイム.....26

橋口晃一さん

街角ウォッチング.....28

鹿児島ふれあいスポーツランド周辺

わが家の味じまん.....30

平原さん夫婦

館のたからもの.....29

維新ふるさと館

わが町上空支所編.....27

吉田支所周辺

30

29

28

27

26

24

22

20

18

16

14

12

3

★表紙写真説明

朝日通りからの桜島。
ビルの谷間からの桜島は大きく見え、
パワーを感じます。

特集

まるごと 桜島



錦江湾に浮かぶ活火山「桜島」。
時には厳しく、時には優しく、激しさと静かさを
兼ね備え、見る人の心を引きつけます。
市民の生活の風景として桜島があります。
合併でひとつになった桜島を、シリーズで追って
みようと思います。
今回は、桜島の今を訪ねてみました。



● 桜島の名前の由来 「桜島」美しい響きをもつこの名前の由来には、いろいろな説があります。

1 桜島の五社大明神社(桜島横山町の月読神社)に祭られている木花佐久夜姫(コノハナサクヤヒメ)から「サクヤ島」、「サクラ島」となった。

2 平安時代の中ごろ、大隅守として桜島忠信が赴任したことから、その名前をとった。

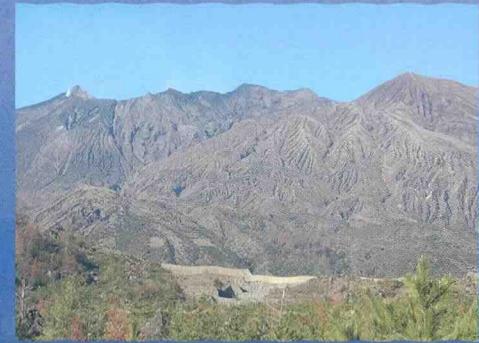
3 噴火して島ができるときに、桜の花が海に一面に浮かんでいたことからとった。

4 桜島の語源は、「サ・クラ・ジマ」からなり、サは接頭語、クラは断崖・崩壊谷あるいはけわしい斜面をもった山、という意味で、そこから桜島となった、など。

波穏やかな錦江湾に横たわり、七色に山肌を変える桜島。その静かなたたずまいの内には地球の鼓動が息づいている。



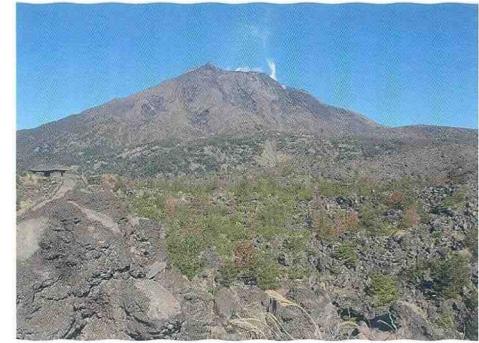
桜島西道町



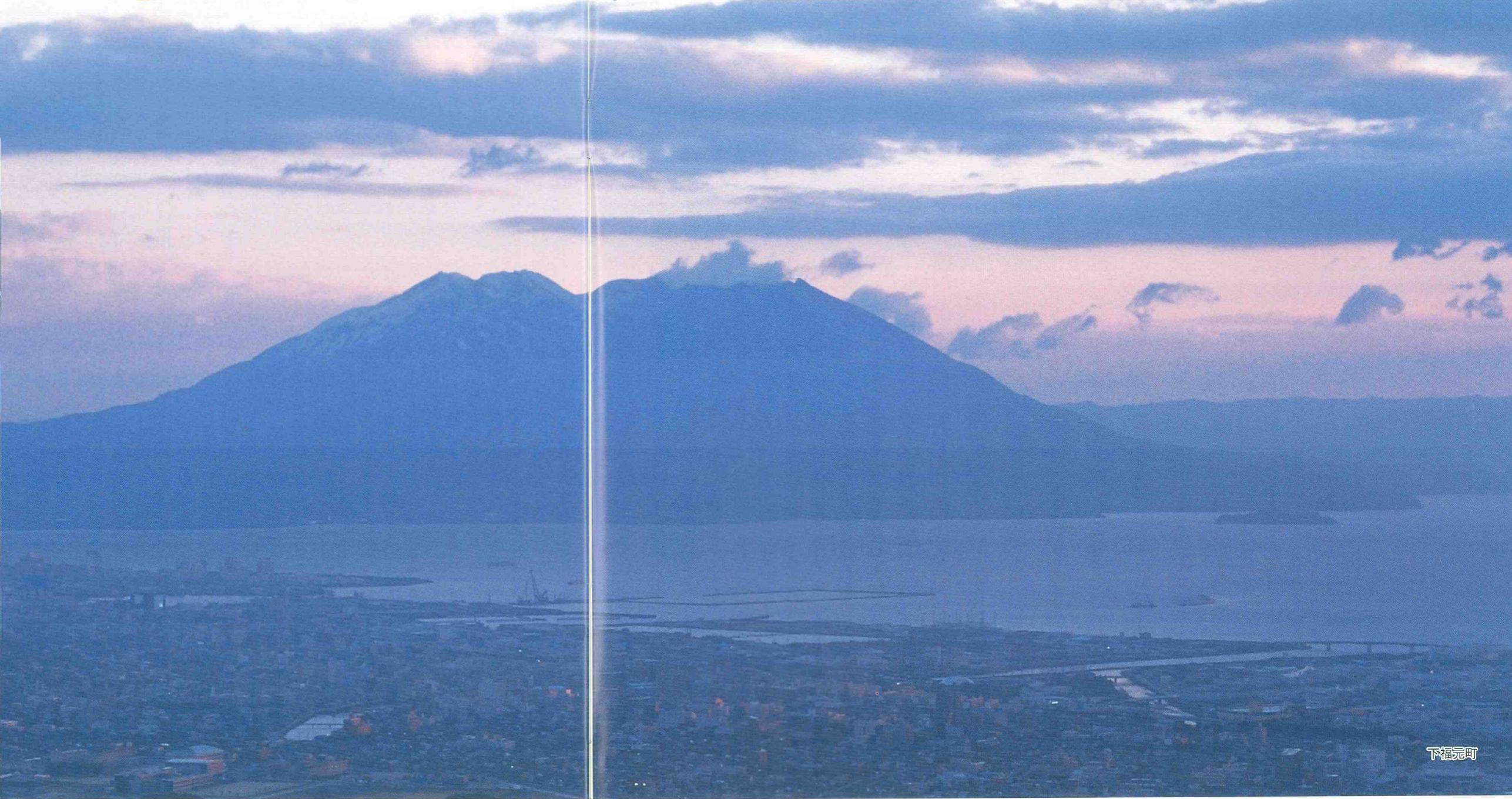
黒神町



湯之平展望所



有村溶岩展望所



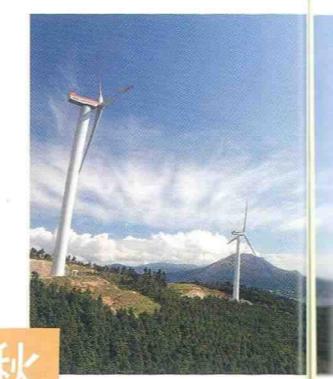
下福元町

与次郎ヶ浜



冬

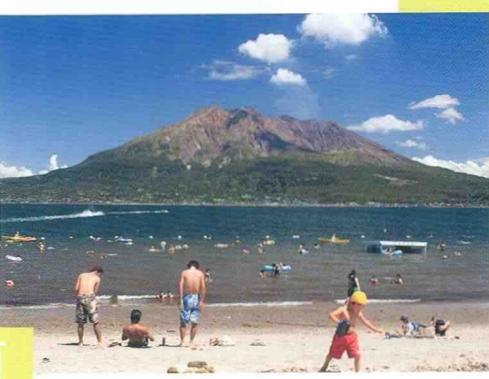
秋



牟礼ヶ岡



夏



磯海水浴場

春



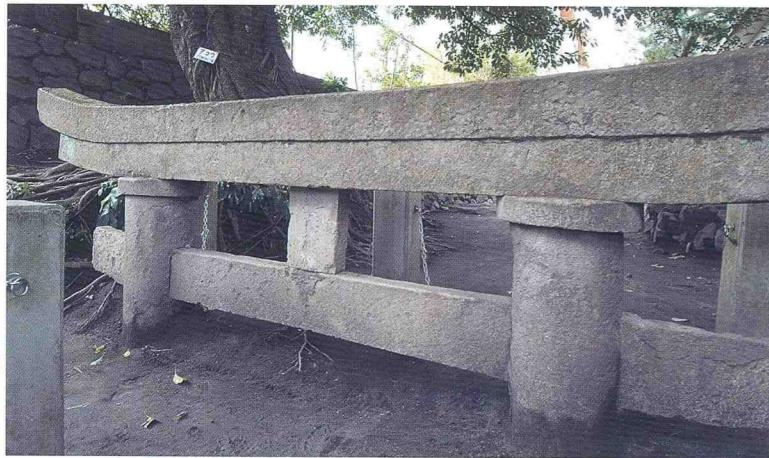
磯山公園



⑧ 浦之前港からは新島への連絡船が出る



火山灰に強いという理由から植樹帯にはツバキが多い



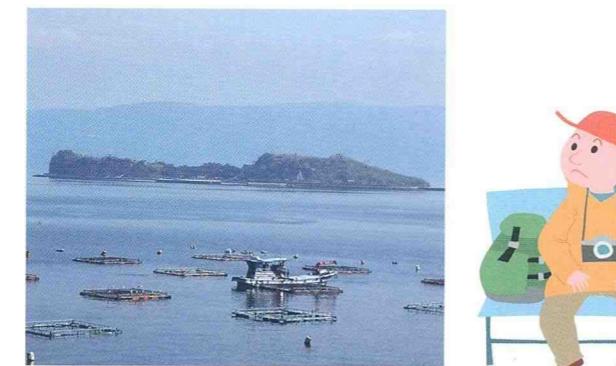
⑨ もとは高さ3mあったが大正3年の大噴火で埋もれてしまった鳥居



⑩ 黒神町にある土産屋



⑥ 桜島白浜温泉センターの源泉は地下1000m。桜島のエネルギーを感じることができる



⑦ 今年の2月から町名が新島町になった



7 | 【特集】まるごと桜島



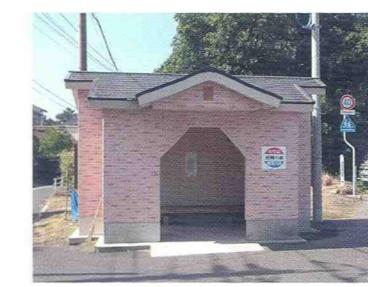
Let's enjoy Sakurajima.

桜島を一周

春の陽気に誘われて、ぶらりと桜島フェリーに乗って桜島に出かけてみた。
桜島は一周約36km。体力に自信のある人は歩いたり、サイクリングも楽しい。



④ 道路を覆うようなアコウの木。石垣を包むように根をはっている



⑤ かわいいピンクの桜峰小前バス停



東京から来たという田中さん(右)。黒神理没鳥居の前で



① 快適な桜島フェリーであっという間に到着

さあ
行ってみよう!



② 桜島自然恐竜公園では実物大の恐竜の模型が来園者を迎える



③ 桜島岳の4合目、標高373mにある湯之平展望所。南岳が間近で迫力満点。眼下には錦江湾と市街地が広がる



溶岩なぎさ遊歩道付近では釣りや貝とりの人も多い。鹿屋市から貝とりにきた人たち

海の中はイソギンチャクの群生などきれい。海を挟んで市街地が見えるのが新鮮で



宮崎からスクューバダイビングに来ていた川田さん

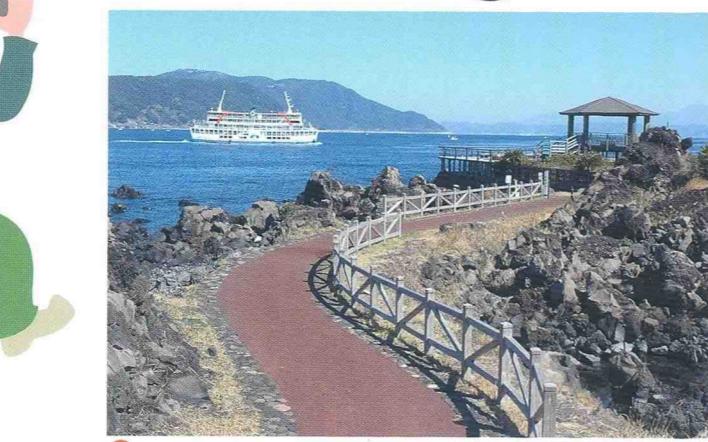


名残惜しく桜島を後にした

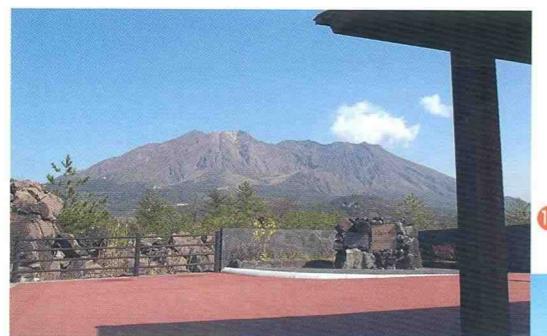
またくるね



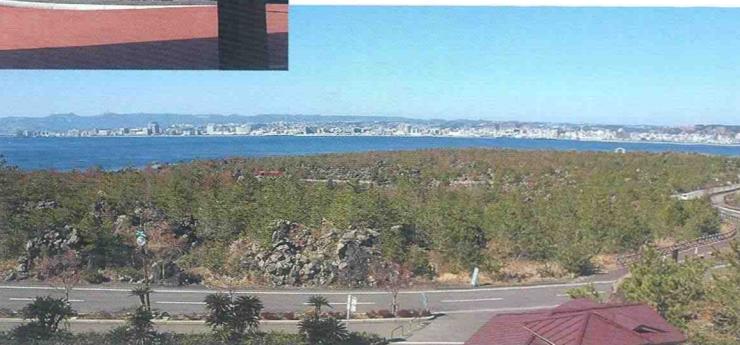
溶岩の向こうに市街地が見える



16 溶岩と海が両側に続く溶岩なぎさ遊歩道



17 大正3年の大噴火で沖合500mにあった鳥島は30億トンもの溶岩流にのみ込まれた



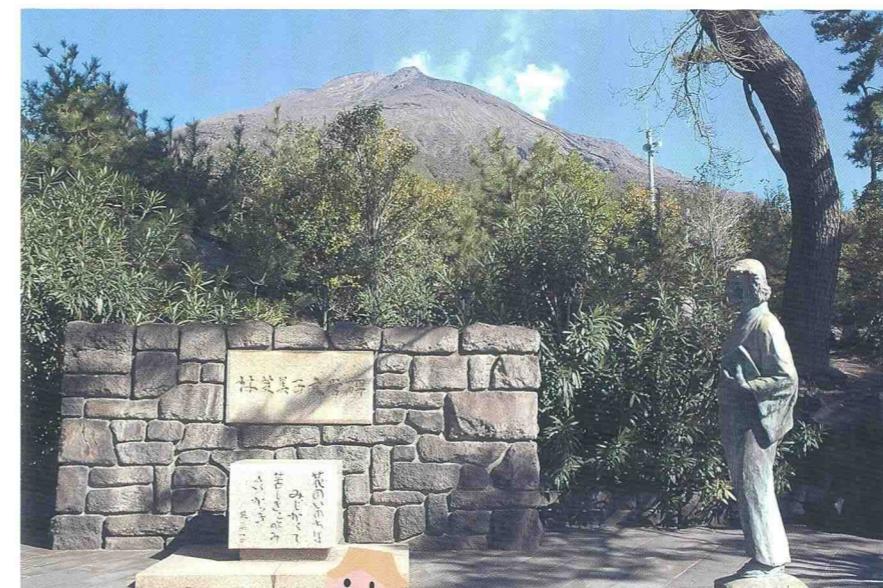
溶岩の向こうに市街地が見える



溶岩原の中を突き進む直線道路の向こうには桜島フェリーの姿が



11 大正3年の大噴火で溶岩が流れ出し、大隅半島と陸続きになった瀬戸海峡 左が桜島、右は大隅半島



13 幼少の頃過ごした古里に建つ林芙美子文学碑



小みかんソフトクリームは
さっぱりとした味わい。
大人気ですよ



14 火の島めぐみ館

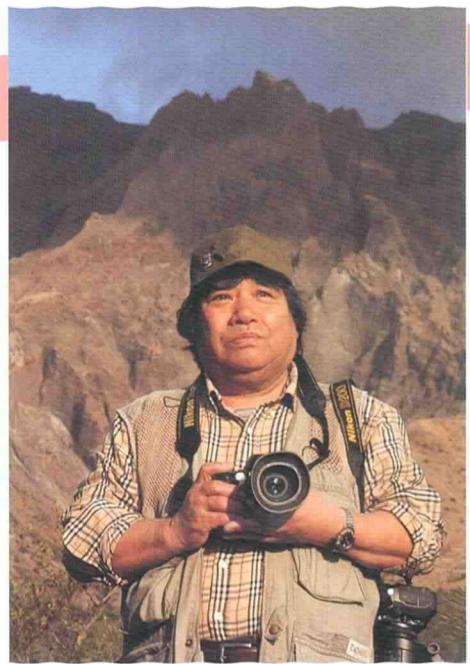


15 桜島ビジターセンターで火山のすごさを知る



千葉から来た荒木さん(左)
と鹿児島の友だち

Let's enjoy Sakurajima!
桜島を一周



熊副 穂さん（上竜尾町）

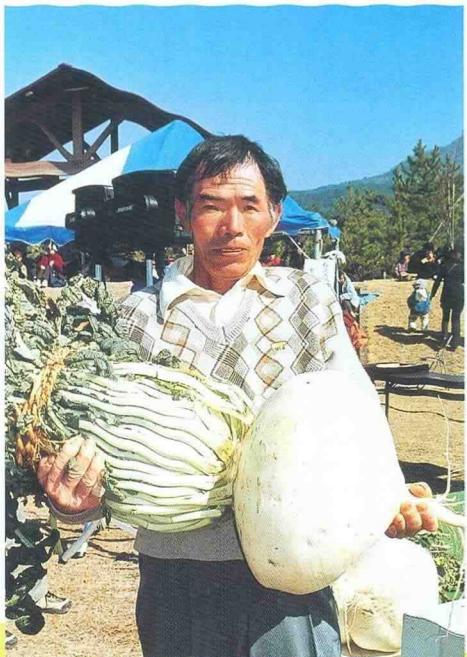


昭和47（1972）年黒神地区・ビワの出荷作業

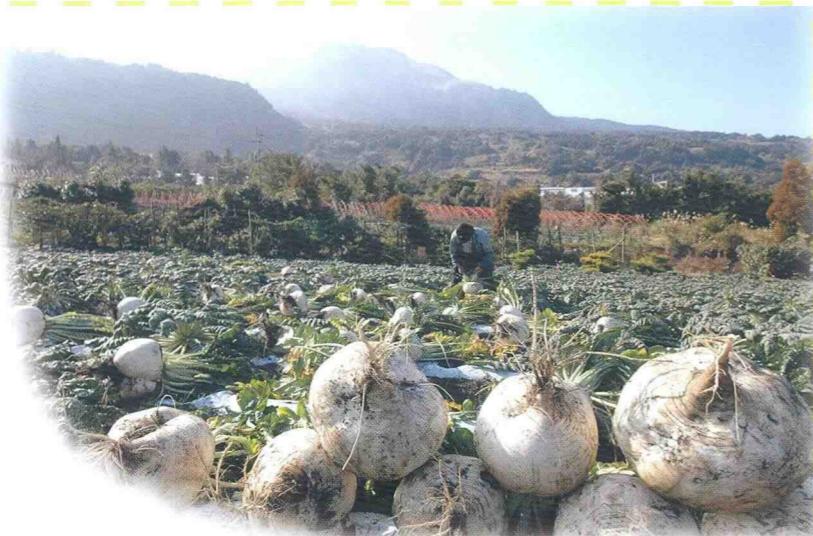
活動の場は鹿児島だけに限らない熊副さん。「これまで全国各地のきれいな風景を見てきたが、桜島が一番すばらしいと思う。城山や長島美術館からの眺めは壮大。これ以上はないのではないか。わたしが桜島に興味を持ったのは活火山の火口近くにたくさんの人々が暮らしているということ。世界でも珍しいのでは。自然と人間との関係、人々の暮らし、風土を撮ってきた。自分の生きざまとしてこれからも撮り続けていきたい」。

写真

桜島大根



大野 学さん（桜島白浜町）



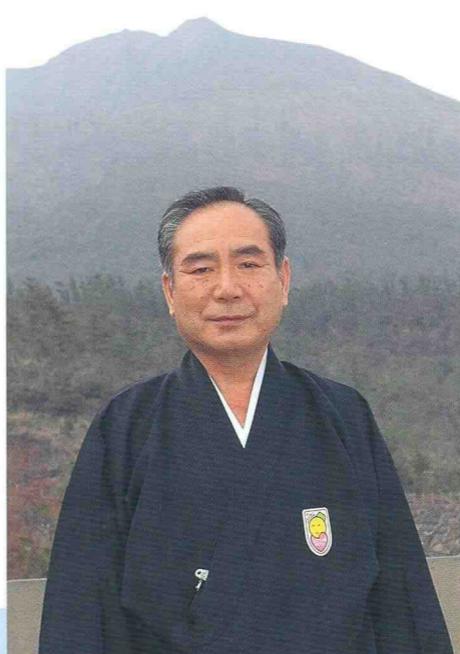
桜島で行われている世界一桜島大根コンテストで4連覇、大野さんの栽培した重さ31.1kgの桜島大根がギネスに掲載されている。地場産業としての桜島大根が廃れないよう約170アール、1万2000本を栽培、日々努力と研究を重ねている。「桜島大根づくりはやっぱり肥料が大事」と経験からの自信が溢れている。「桜島は宝の島だ。海と山、空気もいい。今は火山灰もほとんど降らないし栽培しやすい。一步進んで桜島大根の品種改良に取り組み、消費者に満足してもらえる桜島大根を自信と誇りを持ってつくっていきたい」と熱く語る。

桜島と共に生きる

噴火を繰り返す桜島。噴火による被害の一方で、温泉や観光、農業、漁業など、人々に恵みをもたらす。その恵みは、よその土地ではなかなか得られない。

桜島ならではのもの、桜島でないといけないものである。

桜島大根や桜島小みかんは、桜島以外でうまく育てられた例は少ない。島の人は誇りと郷土愛を胸に、力強く生きている。



観光ホテル

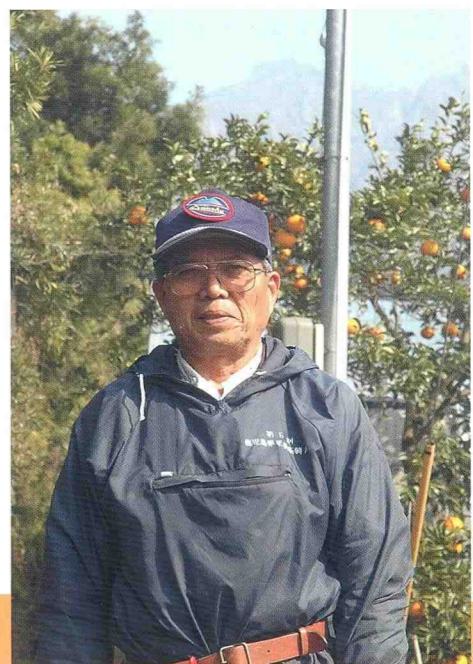
今も噴煙を上げる南岳に近い古里温泉。温泉という火山の恵みを受ける一方で、降灰や噴石、土石流など火山の被害も受けてきた。「先祖が難儀をして守ってきた場所。ここを離れることは考えられない。桜島はわたしにとって親のようなもの。降灰などの苦労は試練であると考える。桜島で生を受け、桜島にいろいろ教えられている」と上村さん。「もてなしの心で旅館としての日本の良さを出し、温泉を生かした個性をつくりていきたい」と夢を広げる。また、地域住民と観光客が交流できる場をつくり、地域の活性化を図ろうとしている。

上村 美智雄さん（古里町）

桜島小みかん

「桜島は一番よかところ」と有馬さん。桜島は昔から果物の産地。降灰が激しくなるまでは農家の所得は県内でも上位だった。降灰により小みかんの耕作面積は以前に比べると減った。屋根掛けビニールハウスで栽培しているため台風の都度、ビニールをはいだりかぶせたり。年末の贈答用が多いので収穫期間が短く労力がかかる。共同販売の下、糖度センターでの品質管理と、研修会などで全体の品質向上を図っている。豊かな香りと強い甘みで有名な桜島小みかん。「より良い小みかんを消費者に届けたい。そして桜島だけでなく県のブランドへとしていきたい」と意欲を燃やす。

有馬 静雄さん（桜島小池町）



鹿児島でしか できないこともある



「ぼくは、鹿児島でしかできないことがある」とあると思っているんです」。

大久保さんが鹿児島で感じることをどんなかたちにしていくのか目が離せない。

活動の拠点は鹿児島。

「ぼくは、鹿児島でしかできないことがあります」。

夏ごろには、専用のスタジオが自宅にできる。「完成したら、24時間いつでもできる」と顔がほころぶ。

これからは、ドラマーとしての活動を中心に、ライブを定期的に続けていきたいと考える。

柔らかい物腰で交流する大久保さんの姿が目に浮かぶ。

【ドラマーとして】

使つて作曲するようになった人や、70歳代の作詞家。レコード制作エンジニアでもある大久保さんのところには、いろんな人が集まる。

「音楽は、いくつになつてもできる。彼らは、ぼくと親子くらい年が離れているけど、とても元気。こういう人たちと接するのはおもしろいですね」。

柔らかい物腰で交流する大久保さんの姿が目に浮かぶ。

【ドラマーとして】

「流行が好き」と話す大久保さん。ドラマーとしてライブで活躍する一方、CMソング制作やレコード制作など多方面で活動。

常にアンテナを張って、新しい音楽を追い求めている。

【本場で学んだドラム】

「広がりがある」。それまで演奏したことのある楽器との違いを感じ、

本場に行つてみたいとアメリカに留学。ドラムの技術をしっかりと学び、レコード制作や作曲、アレンジも学んだ。

【ジャンルにはこだわらない】

年間80回を数えるライブは、ジャンルもメンバーもさまざま。

その一つに、4人で組んでいるロックバンドがある。メンバーは30代後半の会社経営とそれぞれ仕事を持つ。忙

しい合間を縫つて集まり、昨年はウォーターフロントフェスティバルで演奏。アルバムも制作した。今後、海外の野外ライブにも参加したいと思っている。

【世界のヒットチャートを常にチェックしています。新しい音楽をヒップホップ、ロック、歌謡曲と幅広く聴いているんですよ】

「ぼくは流行が好きなんです。もちろん、昔のものがダメというわけ

ではない。でも、今を生きているから、昔のいい部分を取り入れつつ、新しいものをやっていきたいと思っています」。

【人をつなぐ音楽】

アメリカから鹿児島に帰ってきた10年前、鹿児島は音楽の環境が整っていないと、大久保さんはいいました。そんななか、できないことを環境のせいにしたくなかったという大久保さん。

「やつていくうちに、鹿児島も変わっていましたから、多くの人と知り合いました」。

小学校の音楽の先生で、退職後、歌謡曲に目覚め、コンピューターを

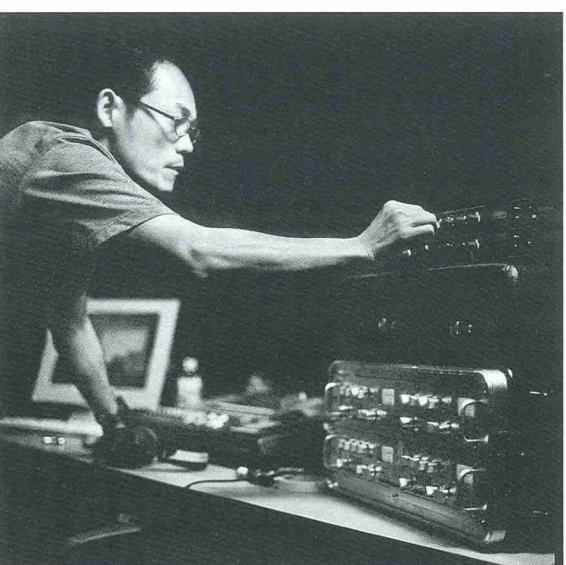
Close Up

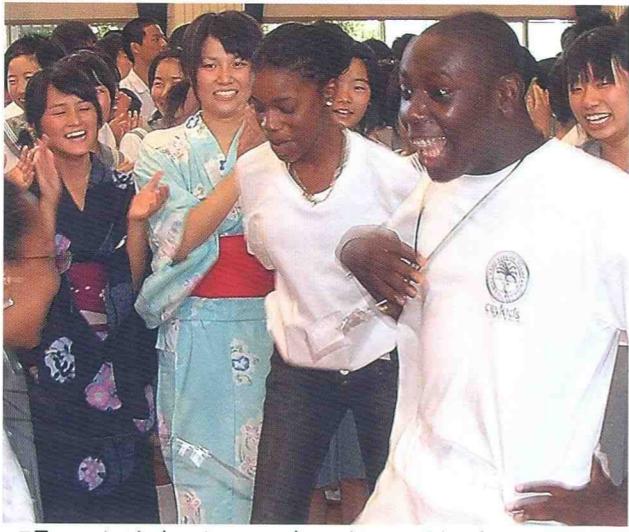
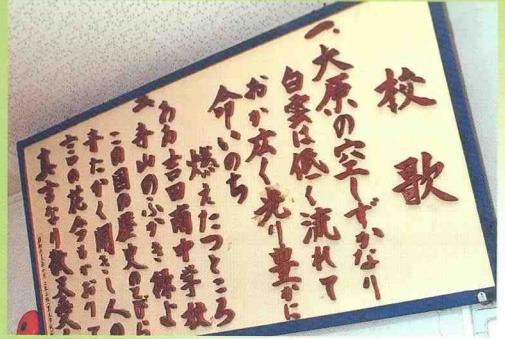
クローズアップ

大久保 重樹さん

略歴

昭和45年生まれ。
大学卒業後、アメリカに留学。
ドラム奏者であり、レコード制作、CMソングの作曲・制作なども行う。
高度で洗練された技巧と豊かな芸術性が高く評価され、平成17年度鹿児島市春の新人賞を受賞。

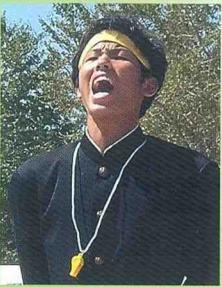




7月、マイアミ市からやって来たゴスペル隊と交流。陽気なメンバーに会場は大いに盛り上がった



9月、59回目を迎えた体育大会。思いっきり汗をかいた



We can do it!!
～挑戦しないことには、はじまらない～



創立 昭和22年5月 生徒数 363人（平成18年3月1日現在）



創立時から生徒を見守るメタセコイア



休憩時間、今日もコイは元気かな



大原遺跡

学校の敷地には、縄文時代前期の吉田式土器などが発掘された大原遺跡がある。

(実物大)

大原遺跡は、吉田中学校の敷地内に位置する縄文時代前期の遺跡である。出土した吉田式土器は、その特徴的な丸底や厚壁で知られる。また、石器や骨器などの生活用具も出土している。この遺跡は、古墳時代初期の吉田式土器の分布範囲を示す重要な発見地点として、学術的に価値がある。



学校探訪

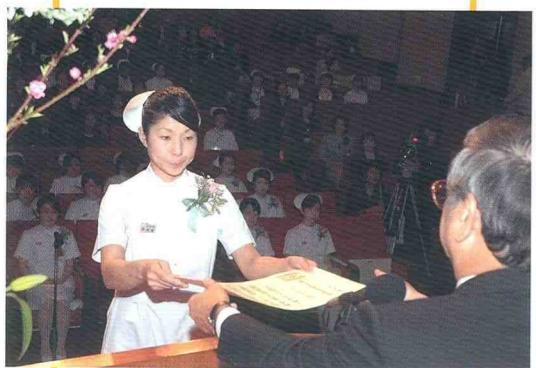
吉田南中学校



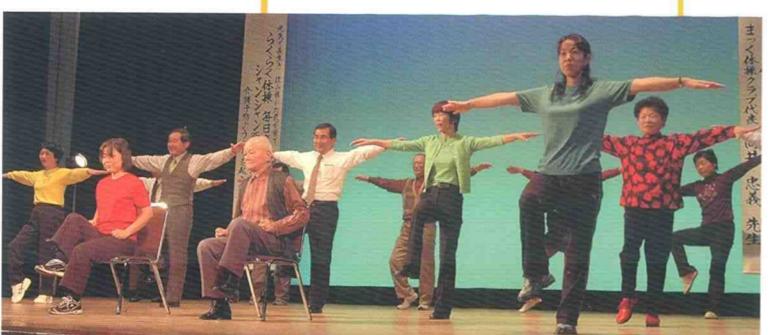
2月中旬 梅



2月19日
千葉ロッテマリーンズ優勝パレード
31年ぶりの日本一になったプロ野球チーム千葉ロッテマリーンズが、天文館一帯でパレードを行い、約3万人が沿道から大きな声援を送っていました。



3月3日
市立高等看護学校最後の卒業式
3月31日で閉校。卒業式では30人に卒業証書が授与されました。これまで32年間で854人が卒業しました。



2月6日 らくらく体操発表会
鹿児島市民歌やおはら節に合わせてゆったり身体を動かす「らくらく体操」を大学の先生や市民団体、市が一体となって開発。中央公民館で披露されました。



1月12日
桜島火山爆発総合防災訓練
桜島の大爆発を想定した訓練が桜島溶岩グラウンドやJR鹿児島駅付近広場を中心に行われ、持木港ではヘルメットをかぶり、フェリーで脱出しました。



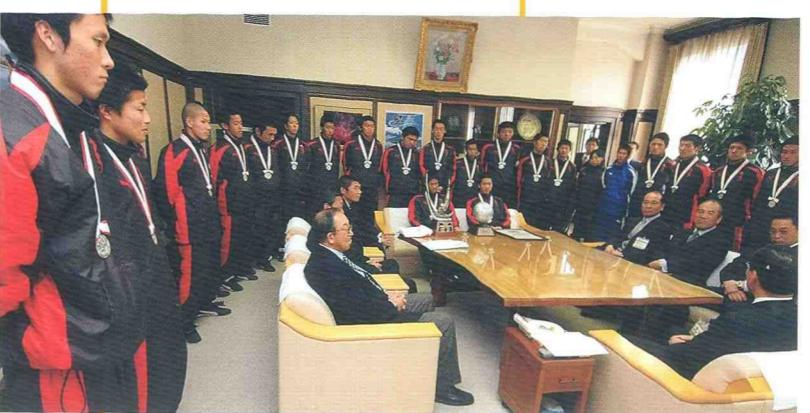
2月3日~24日
プロスポーツチーム鹿児島キャンプ
昨年日本一になったプロ野球千葉ロッテマリーンズやJリーグのジュビロ磐田、清水エスパルス、サガン鳥栖のプロスポーツチームがキャンプインしました。



1月8日 新成人のつどい
会場の市民文化ホールには約5,700人が集まり、華やかな晴れ着姿の新成人があふれています。



1月8日 消防出初式
消防職員、消防団員など約1,500人が参加。総合訓練や一斉放水などを披露しました。



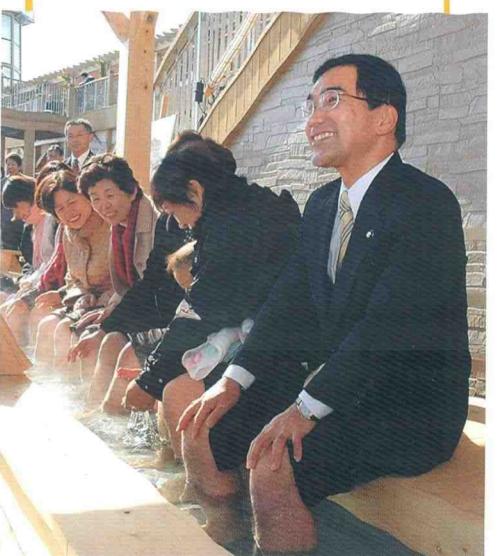
1月11日
鹿児島実業高校サッカー部準優勝報告
第84回全国高校サッカー選手権で準優勝した鹿実イレブンが市長室を訪れました。



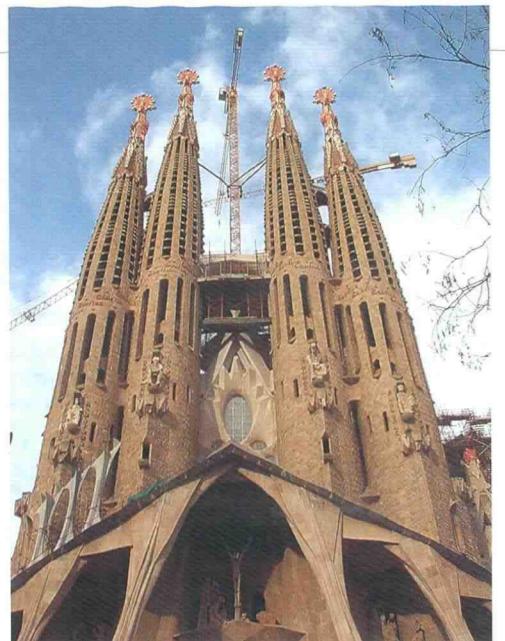
12月22日 記録的大雪
市街地でも約11cmの積雪があり、12月としての記録を88年ぶりに更新。全国的にも記録的大雪となりました。



12月23日
赤ちゃんシンベエザメ愛称決定
かごしま水族館に新しく仲間入りした赤ちゃんシンベエザメ。愛称がユウ太に決まりました。



12月23日
ドルフィンポート足湯完成
長さ7mの足湯が完成し、この日は森市長も桜島を眺めながら足湯を楽しみました。



来年、建設開始から125年目を迎えるサグラダ・ファミリア(聖家族教会)。建設は今も続いている。完成はまだ先の話

ピエさんの故郷は、スペイン第2の都市バルセロナ。人口約160万人で、巨匠ガウディーが設計、建築したサグラダ・ファミリアのある街。バルセロナを州都とするカタルーニャ州は、「スペイン人である前にカタルーニャ人」といわれるほど、地方色が強く、独自の言語や文化を持つ土地柄だ。

ピエさんの故郷は、スペイン第2の都市バルセロナ。人口約160万人で、巨匠ガウディーが設計、建築したサグラダ・ファミリアのある街。バルセロナを州都とするカタルーニャ州は、「スペイン人である前にカタルーニャ人」といわれるほど、地方色が強く、独自の言語や文化を持つ土地柄だ。

ピエさん主催の活動「サロン・デ・アミーゴス」。「アミーゴ」はスペイン語で友達の意味。

いらつしやい サロン・デ・アミーゴスへ

毎月、いろんな国籍や世代の人々が集い、各國の手作り料理に舌鼓を打つ。その中で、ピエさんは、多くの子供たちに注がれている。彼女は、毎月、様々な国と文化を学ぶ機会を提供している。



お国自慢のごちそうと異文化とのふれあい。アミーゴたちの集いは、いつもぎやかで新鮮

独自の文化に誇りを

「いらっしゃい。上がって」。ピエさんは歴史を感じさせる日本家屋に住む。外国人のピエさんだが、不思議と違和感はない。

ピエさんの故郷は、スペイン第2の都市バルセロナ。人口約160万人で、巨匠ガウディーが設計、建築したサグラダ・ファミリアのある街。バルセロナを州都とするカタルーニャ州は、「スペイン人である前にカタルーニャ人」といわれるほど、地方色が強く、独自の言語や文化を持つ土地柄だ。

大黒柱は男それとも女?

来日して今年でちょうど30年。イギリス留学中に日本人のご主人と知り合い、鹿児島で結婚。

男尊女卑の風土がある所と聞いてきたが、聞くと見るとでは大違いだった。

「家のなかでは女人が断然強いじゃないの。どっちが大黒柱か分からない」と大笑い。

3人の娘たちは成長し、イギリスに暮らす。鹿児島の習慣を一から教えてもらつた明治生まれの義母と同居。在宅介護の毎日が続くなか、「お母さん、百歳まで頑張つて」と

しつかいせんね 鹿児島人

最近、ピエさんが心を痛めていること、それは失われつつある「鹿児島らしさ」だ。

鹿児島に来たころに比べると、街の中にはどんどん新しい建物ができる、古い街並みが消えていく。鹿児島弁の美しい響きもあまり聞かなくなつた。

「鹿児島弁や鹿児島の歴史を伝える文化財などもつと大事にしなきや。世界に誇れる鹿児島の財産を大事にしないなんておかしい。まちの個性を守ること。それが文化よ」と熱く語る。

会費の半分はボランティア活動に。東南アジアのミャンマーへの支援活動も3年目を迎え、約400人の恵まれない子どもたちに、学校の制服や文具をプレゼントしている。

「楽しみながらボランティア活動ができるの。誰でも気軽に参加してみて」と語るピエさん。

「アミーゴの輪を世界中に広げていきたい」。ピエさんのまなざしは、支援を待つ海の向こうの多くの子どもたちに注がれている。



【スペイン出身】
ピエダッ・フェレイラさん

Hello
KAGOSHIMA



庭の花や緑が癒やしてくれる 鹿児島での22年を思い返す場所

夫がロサンゼルスで仕事をしているときに知り合い、結婚。最初は鹿児島にずっと住むことになるなんて考えてなかつたんですよ。だからそれまで家族の会話はすべて英語。娘もわたしも周りの人たちが話すことがほとんど理解できずに、1年くらいは一人で毎日泣いていました。娘が歌手を目指そうと決めたのは、中校一年生のとき。大勢の人の前で歌つたことがきっかけでした。娘には、「好き

なことがあります。22年前の春の日差しがふりそそぐ仙巖園で娘に話してくれるバー・バラさん。講演などの合間を縫つて、今は6月に控えた日本舞踊の舞台に向けて練習中。「仕事をも趣味も楽しむことが大事」。明るい笑顔と言葉で周りを元気にしてくれる、まさに「サンシャイン」というイメージの女性でした。



娘の愛さん、ロサンゼルスに住む母と姉と

【取材メモ】
春の日差しがふりそそぐ仙巖園で娘の愛さんやご主人との思い出を楽しそうに話してくれるバー・バラさん。講演などの合間を縫つて、今は6月に控えた日本舞踊の舞台に向けて練習中。「仕事をも趣味も楽しむことが大事」。明るい笑顔と言葉で周りを元気にしてくれる、まさに「サンシャイン」というイメージの女性でした。

仙巖園

ここはいつも来ても季節の花がきれいで、水が流れる庭や緑を見ながら歩くと、静かな気持ちになれます。初めて来たのは、22年前にロサンゼルスから鹿児島に来たばかりのころ。夫とまだ2歳だった娘と一緒にした。ちょうど菊まつりのころで、初めて見る景色に、娘がうれしそうに池の周りを走っていたのを覚えています。

なことがあつたら、そのことに集中して、続ける努力をしなさい」とつて言いました。これは、慣れ

ない環境で落ち込んでいたわたしに、父がかけてくれた言葉なんですね。娘は、中学を卒業すると、歌とダンスを本格的に勉強するため、単身ロサンゼルスの高校に入学。レッスンを受けて、歌手活動をしながら、高校を卒業しました。好きという気持ちは何よりも強いです。今、わたしは子どもたちに英会話やダンスを教えています。どんなものでも一生懸命に好きと思えるもの

を小さい時に見つけてあげられたらいいですね。

外国や県外からお客様が来ると、仙巖園に案内します。季節やそのときの天気によつて、いろんな景色が楽しめるでしょう。鹿児島の素晴らしさは、こういう昔からある歴史や自然をいつまでも大切に残していること。そして住んでいる

人たちが、個性豊かで優しい。やりたい仕事を見つけて、充実した今があるのは、この鹿児島で出会つて、応援してくれた多くの友人や家族のおかげ。娘も鹿児島が大好き。ある賞を受賞したとき、ステージの上で「わっせ、うれしい」と言つたんですよ。若い人たちには、もつと故郷の良さを知って、鹿児島の出身であることに誇りに持つてほしいですね。



植村 バーバラさん

昭和23年、アメリカワシントン州生まれ、ロサンゼルスで育つ。日本人の夫と結婚し来鹿。英会話やダンスの講師、作家、ボランティアの主宰者として活動中。講演会も全国各地で行っている。昨年、NHK紅白歌合戦に出場した歌手、AI(あい)の母。

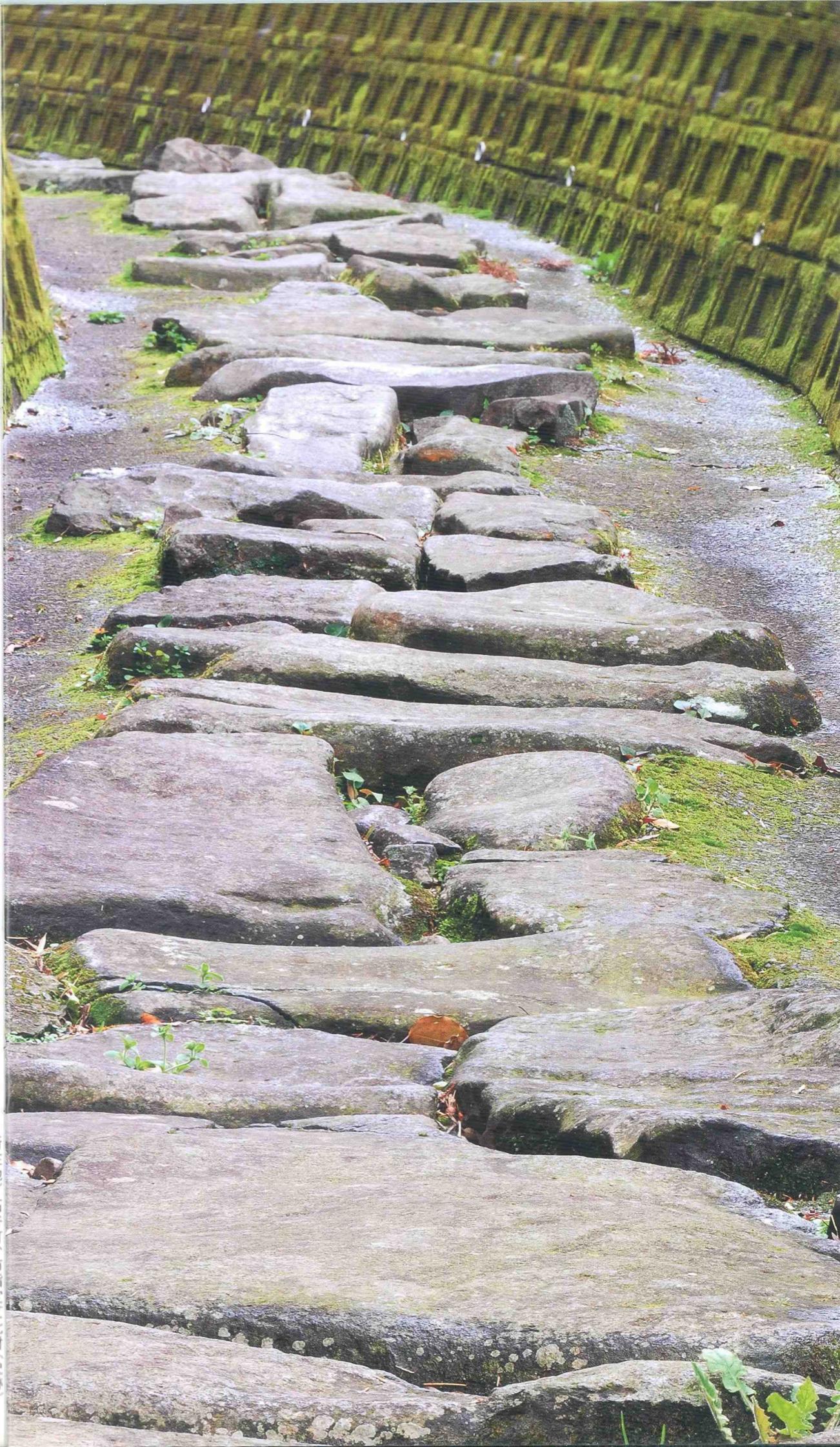


和の好きな場所
My favorite Place

石谷の石坂

文 松元公民館社会教育指導員

戸崎 勝洋



郷中教育の心を伝える石畳

ごじゅう

「石坂」のある石谷町は、かつて町田氏の領地だった所である。町田氏は島津一門の名門として中世以来、島津氏を補佐する重要な役割を果たしてきた。

藩政時代最後の当主、町田久成は江戸で学問を修め、慶応元（一八六五）年には薩摩藩英國留学生の監督役として渡英するなど、幕末から維新期における開明派の知識人であった。帰国後は外務省勤務などを経て、東京上野の国立博物館の創設に深く関わった「日本博物館の父」として知られている。

久成は、領地の石谷の経営や子弟の教育にも熱心に取り組んだ。

嘉永四（一八五一年）、鹿児島城下の柳原藤助、続いて有馬新七（寺田屋事件で斬殺された勤皇の志士）を呼び、統治に当たらせた。

新七は、石谷に移り住み、夜学を起こし、道場で青少年たち

を訓練したり、五人組の制度や税法を定めるなど精力的に取り組んだ。

当時、薩摩藩では、独特な「郷中教育」が行われていた。

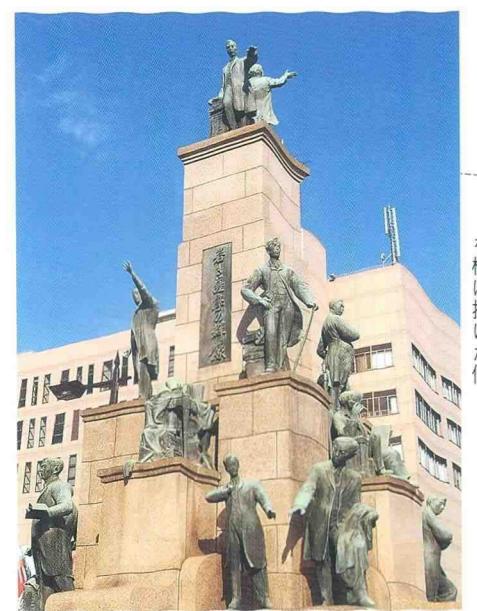
青少年を年齢で「稚兒」と「二才」に分け、文武両道の鍛練を通じて先輩が後輩を指導する異年齢による集団教育である。

「負けるな、うそをつくな、弱い者をいじめるな」を尊ぶこの教育で、幕末期に多くの優れた人物を輩出した。

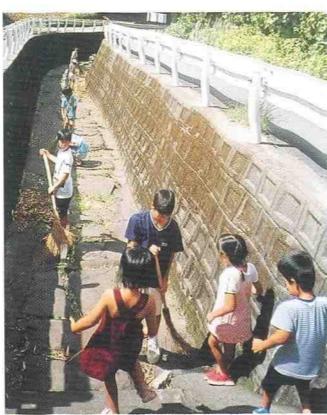
新七は、青少年育成に当たり、悪いことをした者に罰として遠くから石を運ばせて、坂道の悪路を修繕させ、立派な石畳の道に仕上げさせた。

このため道は良くなり、賭博などのふまじめな行為もすっかりなくなつたといわれる。

現在、この石道が、石谷西集落に長さ数十メートル、幅約二メートルほど保存されている。



■若き薩摩の群像（鹿児島中央駅前）
薩摩藩が英国へ派遣した留学生一行十人像。町田久成像は最上段の左手を横に掲げた像



■石谷西ジュニアクラブによる清掃活動

所在地／石谷町、市指定文化財（史跡）

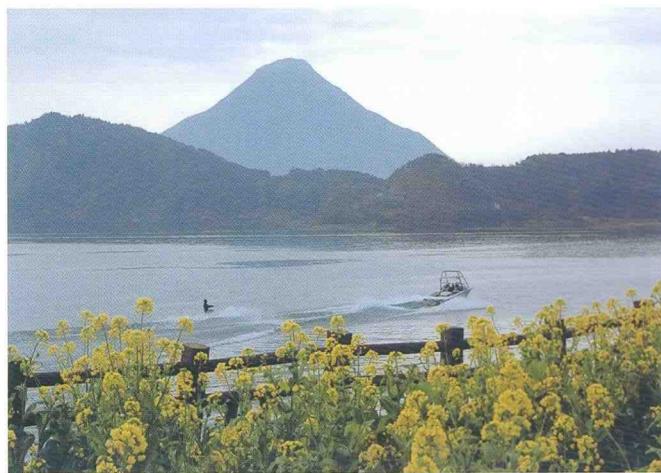
ひと抱えほどもある大きな石を整然と敷き詰めた石畳。この石は付近では産出しない安山岩で、伝えられるところ遠方からわざわざ運んできたものと思われ、当時の労苦を偲ぶことができる。

石坂周辺は、新七の居宅跡や町田氏一族の墓など、町田氏関連の史跡が多く残され、史跡探勝の地となっている。

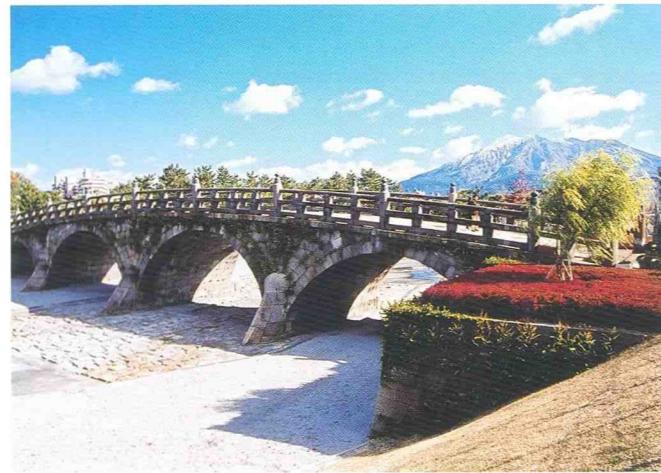
石谷西ジュニアクラブや校区公民館では、文化財の清掃や町田久成の業績を学習する活動など、現代の教育に生かす組みが行わっている。

町田久成が残した形と心。青少年育成に情熱を傾けたその精神は、立派な石畳とともに、今もしっかりと受け継がれている。

このため道は良くなり、賭博などのふまじめな行為もすっかりなくなつたといわれる。



「薩摩富士」 伊東 洋子



「西田橋」 宮内 義弘



「春駒」 下田平 久身子



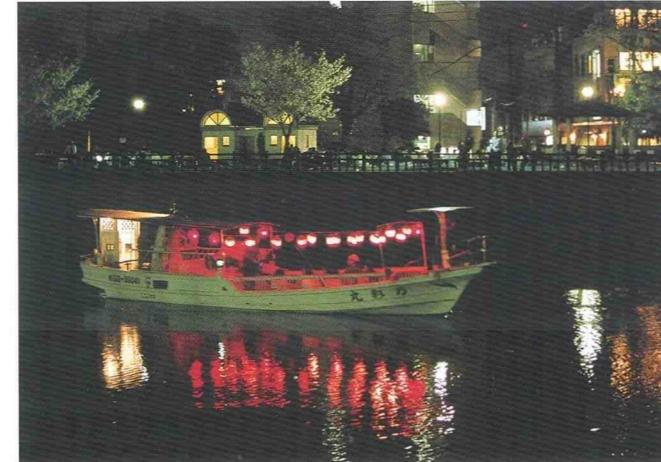
「八重の棚田」 三浦 順子



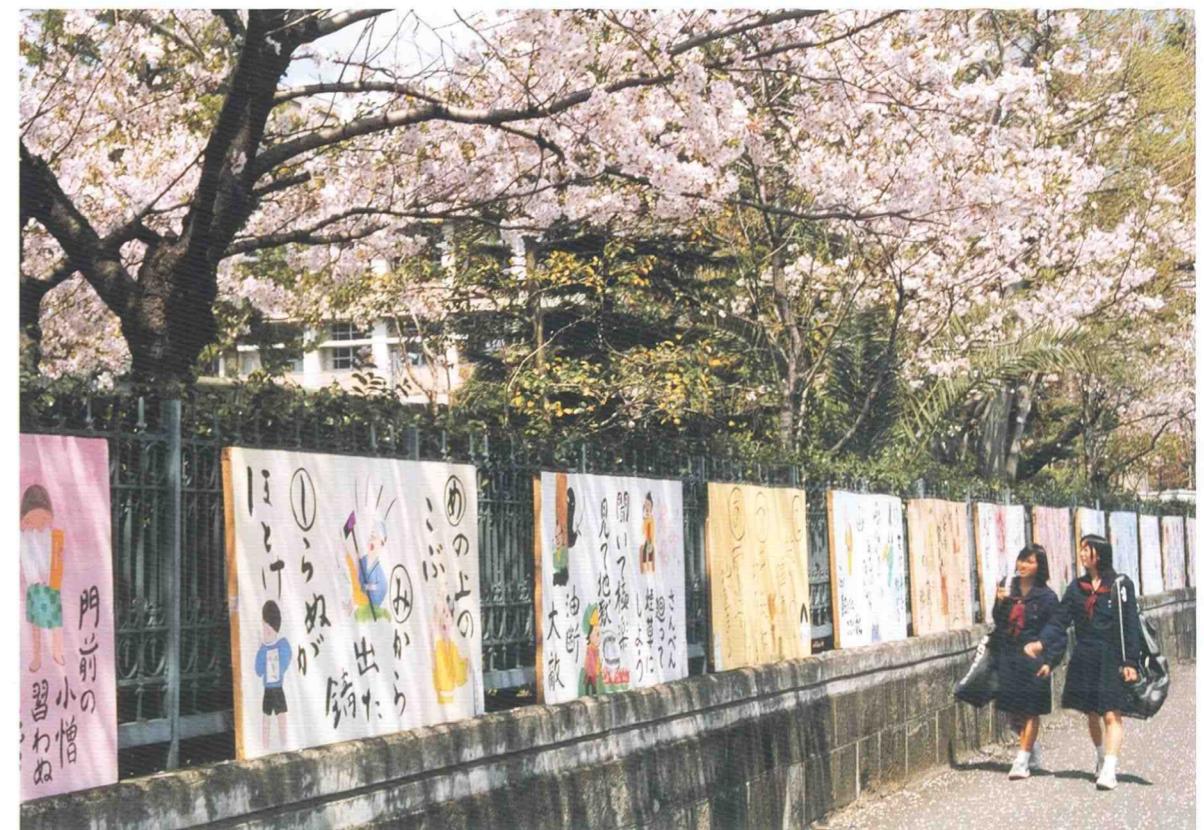
「甲突川畔」 田中 幸雄



「出港待」 田中 幸雄



「夜桜に誘われて」 山下 重三



「春が来た」 吉井 浩一

かごしま春曆

鴨池写友会

簡素で、ただの木の箱にも見えるゴッタン。しかし橋口さんの指先から聞こえてくる音色は、趣のあるとても心地よいものでした。



橋口さんの好きな場所の一つ、茄子田の田の神の前で演奏

ゴッタン演奏者 橋口 晃一さん

三味線とは違うのですか

大工が仕事で余った杉の板で簡単に作った楽器。弦に使っている3本の絹の糸を、バチではなく自分の指ではじいて音を出します。

ゴッタンが演奏されたのは明治から終戦にかけて。当時は貧しい時代であつたため、三味線を手に入れることができず、安価で壊れないゴッタンを楽しんでいました。

弾きながら
歌うのですね

曲は鎮魂歌や地元に伝わる歌など、各地域から流れてきたもので、「昔物」といわれています。よさこい節や男女の恋歌などいろいろあります。師匠に「あんたは歌が上手だつたらよかつたのに…」と残念がられたものです(笑)。

ゴッタンとの出会いは

福岡に住んでいた学生時代、音楽店でたまたま手にしたのが、最後のゴッタン奏者といわれた荒武タミさんのレコード。ゴッタンの素朴で本質的な音色が故郷の鹿児島を思い出させ、就職を機に鹿児島に帰り、荒武さんに弟子入りしました。

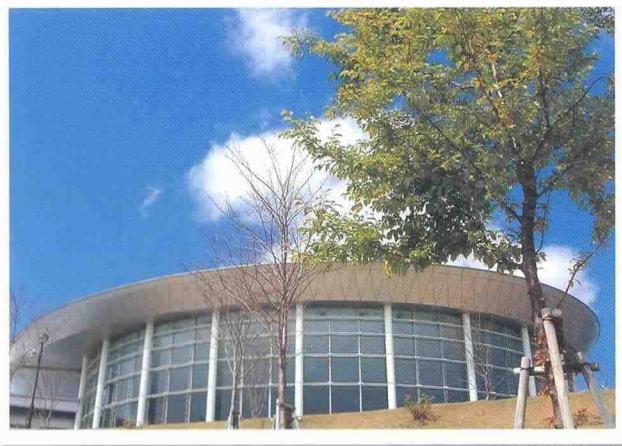
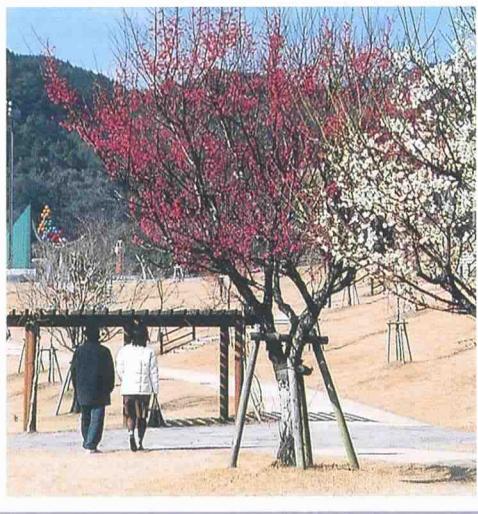
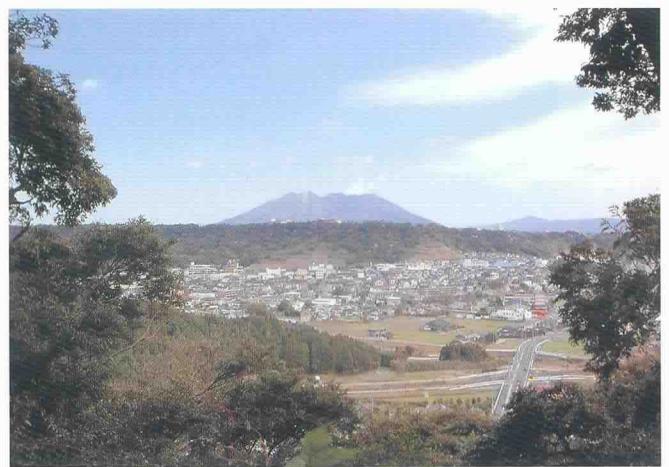
敬老会や結婚式の披露宴などで演奏しています。ゴッタンを知らない人が増えつつあるので、後世に伝えることも大切だと思っていますが、今はゴッタンの演奏をなつかしく感じてくれる人のために演奏していきたいです。

師匠である荒武さんからいただいたゴッタン。今も愛用している



街角ウォッチング

～鹿児島ふれあい
スポーツランド周辺～



味わいじまん

「ミネストローネ」
「カボチャの
ミルク煮」

平原さん夫婦
[西陵三丁目]

家庭の数だけ食卓があり、家庭の数だけ語らいがある。テーブルに広げられた自慢の料理は、家族の笑顔を演出する。

鹿児島市内におよそ25万6千世帯。一人から大家族まで食卓の風景はさまざま。わが家の味は家庭をどのように彩っているのだろうか。

夕食は7年前から年一さんが作っている。男の料理教室に通つたのがきっかけだ。「料理番組を見ることが好きだったので」。現在も月2回教室に通い、夕食で再現する。

取材の日、助手を買って出た裕子さんがしたことといえば、包丁などの片付けと味見くらい。「料理は任せて」と言わ

れちゃつたので」。なるほど、包丁さばき、器への盛り付けなど堂に入っている。まるで職人。

さて、いただきますの時間。「味見のときは濃かつたけどな」「ちょうどよくなってるわよ」「トマトジュースと水の割合が難しいよ」。年季が入り、ますます味がよくなっているというミネストローネ。トマトの酸味が食欲をそそる。ほのかな甘味は煮込んだ野菜からのものか。マカロニが空腹を満たしていく。

今回のレシピ

「ミネストローネ」

1. 材料(4人分)

ニンニク1片、タマネギ1個、ニンジン1本、セロリ1/2本、ベーコン40g、マカロニ80g、バセリ、A(オリーブ油大さじ1、トマトジュース450cc、水600cc、コンソメ2個)、B(塩小さじ1/2、コショウ少々、薄口しょうゆ小さじ1)、
2. 調理手順

①ニンニクは包丁の腹で押しつぶす。タマネギとセロリは1cm角に、ニンジンはいちらりに切る。ベーコンは1cmの長さに切る。

②鍋に①とAを入れて煮る。煮えたらマカロニを入れ(煮すぎない)、Bで調味する。

③スープカップに盛り、ちぎったバセリを散らしてできあがり。



女性に人気というカボ

「カボチャのミルク煮」

1. 材料(4人分)

カボチャ300g、牛乳300cc、バター15g、砂糖大さじ1/2、塩小さじ1/3、枝豆適量

2. 調理手順

①鍋に3cm角に切ったカボチャと牛乳を入れ中火に。沸騰直前に弱火にし落とし蓋をして煮る。

②砂糖、塩、バターを加えて火を止め、ゆでておいた枝豆を散らしてできあがり。

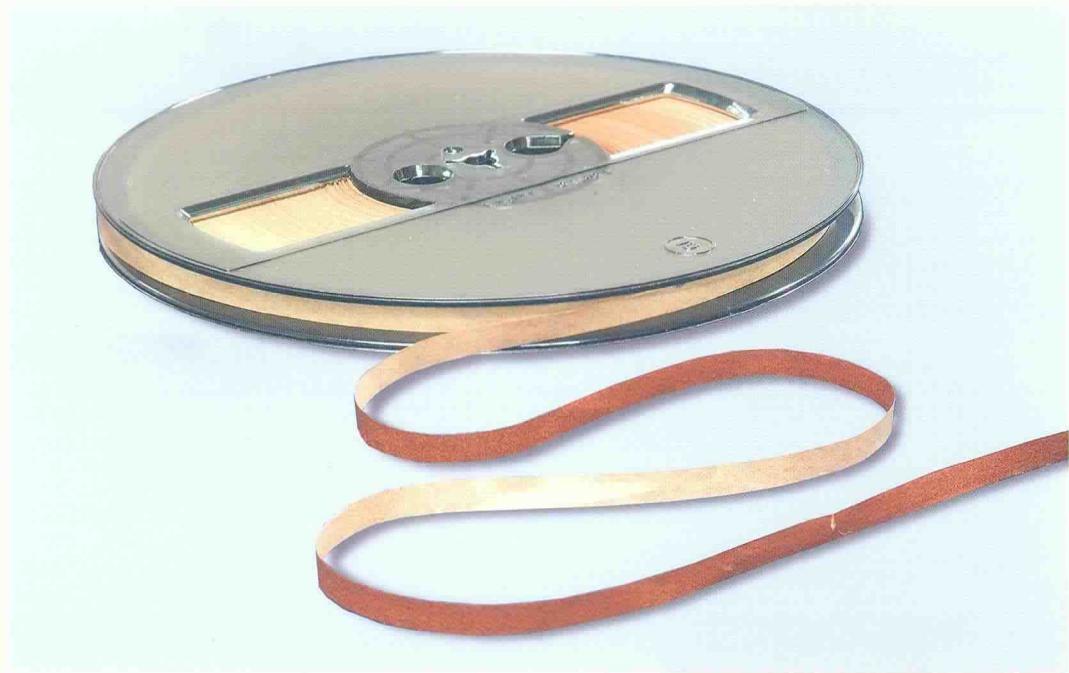


チヤのミルク煮。牛乳がカボチャの甘味を引き立てる。鼻にふんわりと深みのある香りが残り、はしを止める。「バターです。みんな驚きます」。裕子さんは予想通りの反応に笑顔を見せている。東京の二人の娘に請われて伝えた「父の味」ともいうべきものだが、孫たちは「おじいちゃんの方がおいしい」と評価している。

「わたしもたまには作るんですけど、主人の味にはなかなかなりません。つい、お願いしちゃうんですね」。裕子さんの一言が、また年一さんの料理の腕を上げる。

館のたからもの

維新ふるさと館 「西郷さんを語るテープ」



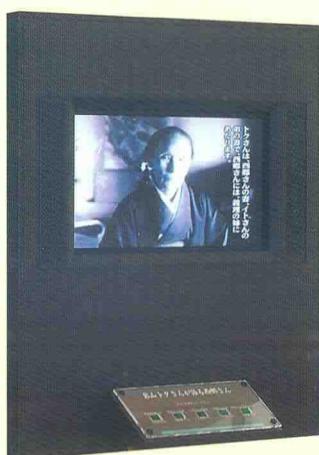
西郷隆盛に関する書物は多いのですが、一般にはあまり知られていない西郷の素顔が語られているのがこの紙製のオープンリールテープ（磁気テープ）です。語り手は、西郷の義妹（妻イトの弟の妻）岩山トクさん。トクさんは親戚として西郷と身近に接し、西郷の日常生活を知る貴重な人物です。

昭和27年6月、トクさんが95歳のとき、当時の鹿児島市長、勝目清氏と対談した様子を録音したものです。親しく接した人でなければ知りえない西郷の癖、妻イトや子どもたちへの愛情あるふるまいなど、日常の素顔が語られています。

また、その対談は、今は地元鹿児島でもめったに聞くことができなくなってしまった品格ある純粋な鹿児島弁で語られており、偉

人をしのぶとともに、美しい鹿児島弁を堪能することができます。

（維新ふるさと館歴史解説員 福田賢治）



維新ふるさと館は、今年3月にリニューアル。

トクさんの声は「薩摩エピソード」のコーナーで聞くことができる



「吉田支所周辺」

鹿児島市の一一番北側に位置する人口約1万1700人の吉田地域。北部は水田地帯、南部は畑地帯で軟弱野菜やニガウリなどの農産物の生産が盛んです。

交通の大動脈である九州自動車道が地域を南北に貫いています。吉田支所周辺は、本城小学校や公民館、保健・福祉センターなど地域の交流拠点が集中しています。

九州自動車道と交差する本名川は思川の支流。川沿いの歩道は緑豊かで、自然の癒やしを感じることができます。県道鹿児島蒲生線沿いの「輝樂里よしだ館」には、地域の新鮮な農産物などが豊富にそろい、休日となると多くの人でぎわいます。

わが町上空 支所編



市民フォト 鹿児島

No.104

編集・発行／鹿児島市広報課

鹿児島市山下町11番1号

電話 216-1133

印刷・レイアウト／測上印刷株式会社



R100

この広報誌は、古紙配合率100%の
再生紙を使用しています。